

第2学年 学級活動（人権）学習指導案

1 主題 多様性の尊重

2 主題設定の理由（省略）

3 ねらい

誰もが充実した学級生活を送るために、必要な配慮のあり方を考えて行動しようとする態度を育てる。

4 指導計画

イタリアとの交流会

イタリアの文化 （総合的な学習の時間） 1時間

特別支援教育の視点から見る

日本とイタリア （総合的な学習の時間） 1時間

学校環境の違い （総合的な学習の時間） 1時間

日本と外国を比較して私たちを取り巻く学校環境や教育制度などを見つめさせる。



人権問題意見発表会

意見交換・作文

（学級活動） 2時間

人権問題意見発表会

（総合的な学習の時間） 2時間

様々な人権課題を自分事として捉え、解決に向けて主体的に取り組んでいこうとする意欲を高める。



特別支援教育の背景

特別支援教育の背景とインクルーシブ教育

（総合的な学習の時間） 2時間

特別支援教育の変遷を知り、インクルーシブ教育が導入された背景を理解させる。



見えにくい障がい

「レインマン」視聴

（学級活動） 2時間

支援を必要とする人の存在を知り、生活の様々な場面でどのような支援が必要なのか考えさせる。



インクルーシブ教育の実態

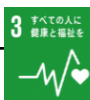
インクルーシブの是非の討論

（道徳科） 2時間

障がい者交流プラザでの実地研修

（総合的な学習の時間） 2時間

インクルーシブ教育がめざす社会のあり方について考えを深めさせる。



インクルーシブな教室をめざして

みんなで跳んだ

（道徳科） 1時間

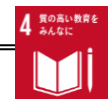
必要な支援のあり方

（総合的な学習の時間） 1時間

誰もが認め合い高め合える学級をつくる

（学級活動） 1時間 **（本時）**

誰もが同じ場所で同じ教育を受けられる世界をつかっていくために、一人一人にどのような考えと行動が求められるのかを考え、まずは自分自身が所属する集団において誰一人取り残さない環境をめざして主体的に取り組んでいこうとする態度を養う。



5 本時の学習

(1) 目標

多様性を認め合い、個人の特性に応じて誰もが高め合える学級をつくらうとする態度を養う。



SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」

SDGs目標10「人や国の不平等をなくそう」

(2) 普遍的な学習のテーマ 多様性の尊重

個別人権課題名 障がい者

(3) 展開

| 学 習 活 動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| 1 生徒代表が人権作文を読み、全員で聞く。 | ○作文を書いた人がどんな気持ちで書いたのかを想像させながら聞かせる。 |
| 2 「障がいの有無に関わらず全員が共に学ぶべきか」という問いに対して自分の意見をもつ。 | ○なぜ共に学ぶべきと考えるのか、その理由を発表させる。 |
| 3 特別支援教育とインクルーシブ教育の双方のよいところについて考える。 | ○双方の問題点ではなくよい点で比較し、どのようなかたちが望ましいか意見を発表させる。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">インクルーシブ教育実現のためには何が必要か。</div> | |
| 4 「本人」、「周りの人」、「教師」の3つの立場を提示し、班ごとに各立場の観点からインクルーシブ教育について話し合う。 | ○授業支援アプリを用いて、班ごとに役割を決めそれぞれの立場に求められる行動を考えさせ発表させる。 ○それぞれの立場の人が関わり合ってインクルーシブ教育が達成されることを理解させる。 ① |
| 5 望まれる配慮や行動を検討し、自分たちの学級で必要なことについて考える。 | ○「合理的配慮」という言葉がどういったことを指しているのか考えさせる。 ②③ ○特別支援教育にもインクルーシブ教育にもそれぞれのよさがあることを理解させた上で、必要な支援のかたちを模索させる。 ① |

(4) 評価

- ・特別支援教育やインクルーシブ教育の意義を理解することができたか。 【知識的側面】①
- ・全員を大切にしたい教育環境をつくらうとする意欲の高まりが見られたか。【価値的・態度的側面】②
- ・合理的配慮について考えを深め、意見を伝え合うことができたか。 【技能的側面】③